

街の活気は
若者パワーと最先端の産業。
武漢市の発展と、
大分市とのこれから。



人口の10人に1人が大学生

名門「武漢大学」をはじめとする大学の数は北京に次いで2番目、学生数は武漢市人口の10人に1人の計算となる約120万人。中国で最も大学生が多い街であり、街中はまさにその通りの光景です。

はやりのカフェや雑貨店が集まる「楚河漢街」や「武漢天地」、武昌魚や豆皮、熱干麵、ザリガニなど地元グルメを食べ歩きできる「戸部巷」、夕暮れから深夜まで料理や雑貨の屋台が1.6キロメートルの歩行者天国にひしめき合う「江漢路步行街」は、まさに若者の街。日系のコンビニやスーパーマーケットも消費の主役は若者だと言っているほどのにぎわいです。

「景気を下支えしているのは、購買意欲の高い若者。とにかく活気のある街で、日系企業の方々の表情が明るいのも景気が上々な証拠でしょう」。そう語る「日本貿易振興機構（JETRO）武漢事務所」の所長・佐伯岳彦さん。6月末に着任したばかりですが、すでに武漢を肌で感じているようでした。

急速に進化し、発展する武漢

武漢市の南東部に位置する光谷は、

ハイテク産業&イノベーション（技術革新）拠点として開発や海外投資が盛んなエリア。高速鉄道専用の「武漢駅」や駅そのものが観光名所にもなる地下鉄、ライトレール、貿易の要の新港など交通インフラの整備も進み、市内外・国内外をつなげる水陸空路の発展のスピードには目を見張るものがあります。

自動車産業を基盤に、最先端のデジタル産業や新エネルギー・新素材産業にも積極的に進出。街並みも新築の高層ビルで急速に埋め尽くされていく武漢市のスローガンは「武漢は毎日変化する」。まさに武漢の現状を表しています。

「大分市をはじめとした日本全体の印象は、責任感が強くとても仕事丁寧だということ。我々が学び尊敬するところですよ」とは「中国国際貿易促進委員会武漢市分会」の部長・徐剛さん。その上でのアドバイスは、もともと武漢に来て実地調査をとのこと。「現地のニーズにふさわしいものにすれば、必ず受け入れられます。成功している日系企業を参考に、地元と積極的に交流しながら方向性を見つけてほしい。そのための協力は惜しみません」と、武漢の友人から大分の友人へに向けた頼もしいメッセージを託されました。

- 01/ 江漢路步行街
- 02/ 街中を走るバイクはすべて電動で静か
- 03/ フードコートに並ぶ食材（戸部巷）
- 04/ スナック感覚の「ザリガニ、カニ、エビ」（戸部巷）
- 05/ 武漢大学 06/ 戸部巷
- 07/ 天井に美しい青空が描かれた地下鉄漢正街駅内
- 08/ 日本貿易振興機構（JETRO）武漢事務所所長 佐伯岳彦さん
- 09/ 中国国際貿易促進委員会武漢市分会部長 徐剛さん

